



館報 まつかわ

松川町公民館報
第717号
令和5年8月15日

町の川 ⑤1 立ヶ沢 (片桐ダム上流)

地区公民館 ゾクゾク活動中!!

第2弾

上片桐地区公民館

7/1

フェスタぎおん in かみかたぎり

夏の風物詩であるフェスタぎおん in かみかたぎり、上片桐区会・松川町商工会上片桐支会・上片桐商栄会・上片桐子ども育成会・松川町交通安全協会上片桐支会・上片桐地区公民館の各団体から実行委員を選出し開催する祭りです。令和元年度に開催してから新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止若しくは規模を縮小して行ってきましたが、本年度は4年ぶりに通常開催することができました。

天気予報が雨という中、急遽、屋台以外は改善センターの中で行うことになり、関係の皆様にはご迷惑をおかけしましたが、大勢の方が訪れ、なんとか無事開催することができました。

こんな日にやるのかという意見もありましたが、終わってみればやって良かったとの意見が大多数でした。どの団体も役員が変わっていく中、運営は大変でしたが、各団体が祭りを盛り上げてくれ、また縁の下の方たちとして携わってくれたおかげで盛況のうちに終了しました。

「フェスタぎおん in かみかたぎり」で「繋がり」の大切さや重要さを再認識することができました。

上片桐地区公民館 主事

「フェスタぎおん in かみかたぎり」の大切さや重要さを再認識することができました。



古町地区公民館

7/23

おうちで色々な体験を楽しもう

地域力向上講座

古町公民館では、区民の皆様への文化的な趣味の広がりや区民同士の繋がりが増えることを目的として、地域力向上講座の内容を毎回変えて実施しています。

過去には「写経」、「苔玉づくり」、「陶芸体験」、「オンラインミートング体験」などを実施しましたが、新型コロナウイルスの区分が5類へとレベルが下がったものの、集合形式の講座への参加が難しい人がいるかも？と考えました。

そこで、区民の方に感染リスクを気にせずに楽しめるような、自宅でできる体験型のキットを配布する企画をたてました。

先日、組合回覧にて募集させていたいただきましたが、コロナ禍前の参加人数と同程度まで回復しました。現時点では配布する段階のため、参加者から体験した感想を聞くことができませんが、少しでも区民の皆様が、楽しい体験に繋がれば幸いです。

古町地区公民館 主事

体験項目としては、「ハーバリウム」、「組子細工」、「陶芸」、「苔テラリウム」、「ア



ハーバリウムの完成品



福与地区公民館

7/29

福与地区納涼祭

4年ぶりに開催する事ができた、福与地区納涼祭ですが多くの方にお越しただき大盛況で終える事ができました。

4年間開催できなかったことで現行の公民館役員は携わった経験者のいない状態でしたが区会の皆様や公民館OBの方々など多くの方に支えられ運営する事ができ、また松川吹奏楽団、ブルメリアダンス教室、太鼓一芸楽人、スクーターズの皆様方に出演していただき素晴らしい演奏、演舞を披露していただき来場者にお喜びいただけましたと思います。用意したテーブルやイスが足りないくらい多くの方に来ていただきました。矢野館長の名司会ぶりも皆さんの心に残ったのではないのでしょうか。来場者の多さを裏付ける事がひとつ、翌日の片付けでのゴミの多さが物語っていました。

長時間に渡り暑い中、運営に携わっていただいた皆様本当にご苦勞様でした。感謝です。

福与地区公民館 主事



郷土の俳人 大島蓼太

第3回まつかわ講座
7月25日(火) えみりあホール



今回の講師は、教職を勤められた後、公民館長・教育長を歴任された鋤柄郁夫さん。今は俳句の選者をされていらつしゃいます。

鋤柄さんが、分かりやすく話してくださった大島蓼太。松川町出身とも飯島町とも言われ今もはつきりしていませんが、私の好きな「伊那谷」を使っての出身でも良いかも、などと思います。

講座には高齢者クラブの皆さんも多く参加され50人余りの経験者の皆さんの中に季語も知らない私一人。冷や汗ものでお聞きした中から身近な二句をご紹介します。

世の中は
三日見ぬ間に
桜かな

世の中の移り変わりが激しいことのとえ。

俳句の日めぐりカレンダー4月1日分で、宇田喜代子さんが選んでいらつしゃいます。以前、勤め先でも、同じようなお話しをお聞きした事があります。桜の開花前線のニュースが流れると農園の果物の花が気になってその世話に追われ：気が付くと緑の葉桜になつていて季節はどんどん過ぎていく、と。

つちくれに
うごくものみな
蛙かな

この俳句は桜山不動尊に歌碑となつて有るそうです。

春、田起こしをして水を張り代掻き作業。稲作シーズンの始まりです。昔はこのような景色だったのですが、今はどうでしょう？水中で動く生物がどれだけ居るか。因みに雨蛙や青蛙などは夏の季語らしいです。本当に季語は難しく、テレビの俳句番組を観て

へエーと言つてるのが関の山の私です。

「大島蓼太」この名前には編集部に在籍して何度、助けられたことでしょうか。

月一発行の館報に掲載する内容に四苦八苦するのは今も昔も変わらないのですが、一年に一回、必ず一面を埋められたのが「大島蓼太展」でした。秋の蓼太忌に合わせて皆さんからの俳句を展示。久しぶりに目にした大島蓼太の名前がとて懐かしく、ちよつと泣きそうになりました。

最後にシニア川柳を一句ご紹介いたします。講座の冒頭で鋤柄さんからお話しがありました。

笑う門には 福来る
一笑一若 一怒一老

もう読んで字のごとく、一回笑えば一つ若くなり、一回怒れば一つ歳をとるといふこと。これが本当なら、まつかわ寄席で大笑いした私は20代の娘さんですが、気持ちのうえで怒ることなく笑顔で過ごしていきたいと思ひました。

お菊さんになりきる圓十郎さん



「関東甲信が梅雨明けした
そうですよ」

まつかわ寄席に来町された
橘家圓十郎さんのこの一言で、
会場にどよめきが起こりました。
平成29年に続き2回目の
高座の圓十郎さんは、以前と変
わらない明るさと体格で登壇
されました。梅雨明けの太陽
のように暑い。圓十郎さんに
は、是非とも怪談噺をしてほし
い。などと、チョットと考えた
私の思いが叶ったのか「番町
皿屋敷」の噺が聞けました。
少しでも涼しくなるような噺
は他に東海道四谷怪談なども

第13回
まつかわ寄席
7月22日(土)
中央公民館えみりあホール

あつて、圓十郎さんの暑そう
な(失礼)体格からどのような
怪談噺が聞きできるのか。

皿屋敷に奉公していたお菊
は、美人で性格も良く仕事も
できる人妻だったのですが、
屋敷の主人青山に横恋慕をさ
れる事に。想いが叶わなかつ
た青山は家宝の10枚組の皿を
一枚割り、お菊の仕業と責め
立て井戸へ飛込む自殺へと追
いやります。その後、お菊の
幽霊が井戸に出ると噂になり
お調子者の若者達が会いに行
き、最初は驚いた若者達も慣
れてきて離し立てます。「お

菊ちゃん」「待ってました」
「イイ女」「もう一回お願い」ま
るでアイドル!! 井戸の周り
は大勢訪れる人々のためのア
トラクション状態となり、お菊
饅頭にお菊煎餅など。ここま
でくると涼しくなるどころか
笑い過ぎて暑くなってきました
た。ダメ押しの一言は「美味
しい物食べ過ぎて太っちゃっ
て、いちまうい、にまうい」が迫
力無くなつて困るんだけど
:」その両手にもお菓子が
しつかりと。どの位太ったの
かな?と思つた時、圓十郎さ
んが「私くらいと思つてくれ
れば」また会場は爆笑の渦!
圓十郎さんサイズだと井戸に
つかかか
問えてしまい怖さなど微塵も
無く、笑うたびに暑くなるば
かり。怖い怪談噺が真夏の太
陽のように暑くなるなんて圓
十郎さんの話芸の賜です。暑
くなつたけどお腹の底から大
笑いできた午後でした。(こ
の原稿を書き始めた7月26日
は幽霊の日でした)



7月29日(土)公民館体育部
企画の小八郎登山が行われま
した。

今年度は、保育園年中さん
から大人まで、総勢17名の参
加がありました。
登山口へ向かうマイクロボ
スの車窓から空を見渡すと、
曇り空が広がり、小八郎山頂
も雲に隠れていました。連日
の猛暑に比べると、暑さが和
らぎ登り易いのかなどと思いつ
つ、登山口へ到着。
参加された方に、参加の経
緯を伺いました。「子どもか
ら登ってみたいと言われた」
「いつも見ていた小八郎でい
つか登ってみたいと思ってい
た」などの声がありました。

それでは、準備が整い登山
開始です。一列になり、山頂
へと歩を進めていきました。
登山道では、高山植物やキノ
コ、昆虫などが私たちを出迎
えてくれました。子どもは元
気がよく「キノコが生えてる
よ」「セミの抜け殻だ」など
大人の私たちでは気づきにく
い発見をたくさん教えてくれ
ました。子どもの元気な声に
励まされながらさらに歩を進
めていき山頂に到着しました。
曇り空で景色が心配されま
したが、山頂からは松川町を
一望することができました。
「あの建物はどこだろう」お
家は見えるかな」など、いつ
もとは違うところから松川町
を見渡し、景色を楽しみまし
た。
山頂での楽しみの一つ、昼
食の時間では、「山の上で食
べるご飯はいつもと違って特
別おいしい」などの声があり
ました。登山の感想を伺う
と、「初めての登山で思ってい
たより大変だった」「楽し
かった」などの声がありまし
た。普段なかなか行くこと
のない登山ですが、高いところ
からの景色は、また違った見
え方があり、新しい発見とな
りました。



松川中央小学校

「差別はいやだ」より

・差別はされるべきではないし、差別をしても何も良いことはない。差別をされた人が嫌な気持ちになるからしてはいけなさと知った。

七月の児童集会で4年生から6年生が一堂に会し、「どうしたら友だちを増やすことができ、その友だちと仲良くすることが出来るか」について話し合いを行いました。この話し合いの中で出された意見を紹介します。

- 姉妹学級の交流で、じゃんけん列車など多くの人と関わる活動をして、クラスの全体と仲良くなる。
○あいさつを心がけたら、友達を意識できる。
○地区が同じ人と帰り道に話をすれば仲良くなれる。
○仲良くできそうな人に声をかけ話をする。友達のことを知ると仲良くなれる。
○たくさん遊んで、相手が困っていたら助ける。
○話し合うこと。考えが違っても、話しているとわかり合えて仲良くなれる。

これらを実践することでこのよい松川中央小にしていきたいと思えます。

* * * *

「道徳の授業で学んだこと」

世界人権宣言から考えたこと

「権利と身勝手はちがう」より

・権利だからと言って、ダメなことをしていいわけではない。
・権利と身勝手のちがいが分かった上でいろいろなことをした方がいい。

「逃げるのも権利」より

・いやな時は逃げないとまた何かされてしまうかもしれない。逃げて悪くないということを知れた。

* * * *

人権標語の俳句

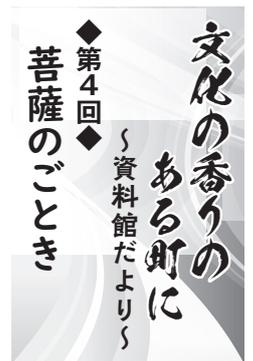
○悲しいよ 男女差別 やめようね

○絶対に 心の傷は 消えないよ

○人間は ころのもらい 動物さ

○人と人 同じ重さの とうとい命

○みんなてね きずなをかたく 心の輪



伊能忠敬(1745~1818)

は、日本全国の海岸を測量し、正確な日本地図をつくった人として広く知られている。佐原村(千葉県佐原市)で商業を営んでいたが、49歳の時に家督を長男に譲り隠居した。50歳で江戸に出て、測量術を学び、55歳で蝦夷地(北海道)に測量の旅に出るから17年。71歳で全国全土の測量を終えるまでに歩いた距離は実に35000キロとも40000キロともいわれている。

忠敬は商才に優れたかなりの財を築き、また天明の大飢饉の際には積極的に貧民救済に取り組むなど人望厚く名主にもなった。

そんな手に入れたすべてのものを投げ打って測量の旅に出た。誰に頼まれた訳でもない。金のためでも名譽のためでもない。日本全国を測量して正確な日本地図をつくる。「おれがやらずしてだれがやるのだ」という強い思いが忠敬を駆り立てている。

宝暦11(1761)年12月11

日夜、信州上田藩浦野組(現在の小県郡青木村)の山村 夫神村から百姓一揆ののろしはあがった。

たかさんの農民が鎌や松明をふりかざし、われもわれもと上田城下を目指してくりだした。翌12月12日、制止に向いた役人の言葉には耳も貸さず、木戸を押し通って城内に入り込んだ百姓の数は6000~7000人あまり。騒ぎ立てた後、時の城代の説得に、皆、ひとまずは引き上げることにしたが、時刻は夕刻6時、多方面からの農民も押し入っていたので上を下への大混乱。その人数ざっと13000人。その声は、天地に響き、山も崩れるばかりだったという。

これが小学館の学習まんが『少年少女日本の歴史』にも描かれている宝暦騒動であるが、その一揆の大きさに上田藩も農民の願い(年貢の軽減・役人の不正の取締りなど)を聞かざるをえなかった。

この一揆の指導者、首謀者は浅之丞と半平である。言い出しっぺともなれば、一揆が成功したとしてもどのようなこと(多くの場合処刑)になるか二人とも分かっている。分かった上で一揆を計画し実行している。浅之丞も半平も血の気の多い、喧嘩っ早い人物

であつたのかもしれない。しかし、やはりこの二人にもたとえ自分の命はどうなるうとも「おれがやらずしてだれがやるだ」という熱い思いがそこにはあつたのだろう。

* * *

松川町生田で生まれた宮沢芳重(1898~1970)は72歳でその生涯を閉じるまで、郷土に若者が学ぶ機会を得られる大学ができることを夢見て、東京で肉体労働をし稼いだお金の大半を、飯田図書館や母校の飯田高校に送金した。芳重の生涯は『人間 宮沢芳重―その反俗の生涯―』(下沢勝井・松下拡共著)に詳しいが、やはり松川町出身の元朝日新聞記者でジャーナリストの本多勝一は、この本の帯で芳重の生涯を「真の教育を求めて孤軍奮闘の生涯のち、憤死してお地蔵さんになった」と記している。

もし信州大学がこの飯田に新学部を置けばどんなに宮沢芳重は喜んだことだろう。

「利他の心を持つ人」とは宮沢芳重のような人のことを言うのだから、私も含め松川町に住むものとして私たちはもっと宮沢芳重を知り、決して忘れてはいけないのだから。

松川町資料館

松浦 善文

東海大会出場決定!



第76回長野県陸上競技選手権大会(7/8)
女子4x100m
第4位(50秒11)
塩澤みのり・光澤琥珀
鈴木梨夏・柳美結

全国大会出場決定!



第40回長野県小学生陸上競技大会(6/18)
男女混合4x100m
第1位(54秒03)
木下玲愛・米山仁夢
中山聖菜・林旺史朗

スポーツ
松川陸上クラブ



第15回 町民ゴルフ大会結果
1位 鈴木孝百
2位 伊藤一浩
3位 湯澤孝之
4位 鎌倉正孝
5位 松下克一
団体部 優勝 上片桐
(湯澤孝之・松下克一 青木豊・宮澤明大塩達也)
準優勝 上新井
(伊藤一浩・宮澤豊 米山毅彦・神村憲好 林孝一)
3位 名子
(鎌倉正孝・米山圭子 座光寺祐二・阿部信一 水野泰秀)

第15回

町民ゴルフ大会結果

コミュニカフエから

えみりあで行われているコミュニカフエを訪れてみました。5月30日ホールから演奏に合わせ歌声が聞こえてきました。今日は何しているのだろう?訪れてみると今日は「コミュニケーションを楽しむ」の日との事でした。社協支援隊の3名の皆さんのギター、二胡演奏者に併せて『みかんの花咲く丘』から『上を向いて歩こう』まで用意された5つの歌を口ずさんでいました。その後はリクエストにこたえるコーナーで楽しまれていました。20名程の参加者の皆さんが楽しまれておられ、聞くところによると90歳以上の方が1/3程おられるとの事でした。歳月を経て激動の時代を生きてこられた背中を拝見し、



穏やかに歌われている姿を見て、おかげで今こうして我々がいる、今日の町がある、と思うと心に感じるものがありました。老いても心豊かに、顔を合せて交流できるこういった場の意義と大切さを改めて感じました。

まつかわ大学 2023
令和5年度 第16期 第2講座
ちよっと
自分らしく
いきなさいよ!
佐々木秀実 講演会
長野出身 シャンソン歌手
9月30日(土)
12:45~開場 13:30~講演会・開講式
松川町民体育館 トレーニングルーム

2023 9/17 Sun. 第32回 松川町音楽祭
花みずき ハナミズキ
♪#どんな時も歌を忘れない 中央小学校合唱団
松川コーラスクラブ ♪明日の空へ
♪歌が息をする ワン・ヴォイス少年少女合唱団
松川町民体育館 トレーニングルーム
開場: 12:45~ 開演: 13:00~
松川高校吹奏楽部 ♪アイドル 合同演奏 ♪茶色のこびん2 ~みんなが主役~
♪あの夢をなぞって 北小金管バンド ♪ラッパ吹奏 消防団喇叭班
中央小金管バンド ♪テキーラ ♪どうする家康 メインテーマ 松川吹奏楽団
松川中学吹奏楽部 ♪桜の道標
主権: 松川町教育委員会・松川町中央公民館 (36-2622)

[地域を知る講座][まつかわ講座]
三州街道(伊那街道) 江戸時代の交通の要所 片桐宿・大島宿を巡る
日時: 令和5年9月23日(土) 中央公民館えみりあ駐車場 8時30分集合
◆参加費無料 定員30名



大にぎわい ★七夕飾り

松川町を含むこの地域では月遅れの8月7日が七夕になります。近年七夕を飾る家庭も少なくなってきました。1か月早いですが夏休みに入る前に多くの子ども達に七夕飾りを体験してもらおうと7月3日に、えみりあロビーに4mほどの竹を2本設置し、5日までの間えみりあに訪れた多くの小学生、中学生、高校生の皆さんに思い思いの願いを書いた短冊をつけてもらいました。キャラクターの絵、叶えたい事、頑張りたい事など願い事が様々書かれていました。きっと願い事が叶いますように!!



願い事が様々書かれていました。きっと願い事が叶いますように!!



美味しい果物作りを目指して

原田 薫子さん



果樹農業研修制度1期生としての研修を昨年終了し、今年独立された原田薫子さん。自然が好きなことや農業法人で桃のお仕事をされていたこ

とがきっかけで、農業に興味を持たれたそうです。東京都出身でご夫婦で移住され「まわりの方は親切であたたかさを感じ、景色もよく住みやすくして松川に来てよかったです。」とおっしゃっていました。こちら嬉しくなりました。旦那さんは応援し手伝ってくれて支えになる存在だと感謝していました。旦那さんにお伺いすると「行動力があり、めげずに頑張っている。」と話してくれました。桃がメインでやりたかったことと原田さんのお名前から

名付けられた「桃薫農園」。桃とりんごを栽培されています。「天候の影響など難しいこともありますが、美味しいと言ってくれる人がいて励みになる。技術的なことを高めた、販売方法の勉強、早生品種、加工にも力を入れていきたい。農園や松川のことをもっと知ってもらえるように県外に出向いたり、アイデアを考えていきたい。」と、挑戦しようとする気持ちが伝わってきました。リピーターもすでにいらっしゃるそうで、意欲的な原田さんなら、さらに美味しい果物を作ってくださいることでしょう。

短歌

松川北小学校二年

あつたらいいなこんなもの

○云んでも行けるロンクフーツ

龍本 実由菜

わたしが考えたのは『ここでも行けるロンクフーツ』です。あつたらいいなと思っただけは、それをはくは、いろいろな国の人に会えると思っただけです。色は、むらさき、ピンク、水色、青です。大きさは、ひまじかがるくらいです。たんに、しまします。

○いつでもホームランバット

林 祐希

ほくが考えたのは、このバットがあれば、いつでもどんなにはやい玉でもホームランがうつるバットです。でも、このバットでうつても、大谷せん手にはかきません。うつつよさは、大谷せん手にはかきません。

にまけてしまします。このバットで、ホームランをたたくことができます。

○広いひみつきちとせまいひみつきち

龍本 すす

わたしが考えたのは、ちかにある広いひみつきちとせまいひみつきちです。あつたらいいなと思っただけは、あつたらかくなれんぼやおうちこつこができて楽しそうだからです。カラフルな広いきちとせまいきちで、いろいろなぬのやテープでできているひみつきちです。

○雲の云々

小林 咲凜

わたしが考えたのは、『雲のりくつ』です。考えただけは、雲のりくつたら、雲がふわふわしていて気持ちがいいと思っただけです。色は水色とピンク色で、大きさはフーツくらいです。雲が雨雲になったら雲からおりて、おうちでじゅう電をして、晴れたらまたのることができま。

短歌

斎藤 登志子(本町)

集うはダメ 会話控えよ 外食も自由を奪うコロナが憎い

山の幸 甥より届く松茸は 厨いっばい香りを放つ

御開帳 七年後には逢えるかな 最後の願いを回向柱に

年二度の彼岸に廻る墓参り 合いたき人を忍び香焚く

涼求め「白馬五竜」に家族等とゴンドラに乗り空中さんぽす



